

石見銀山遺跡 ニュース

Newsletter of the Iwami-Ginzan Silver Mine Site

FEBRUARY 2010 NO.15

平成22年2月24日発行 第15号

島根県・大田市教育委員会



【静かな雪の日の大森】

>> Contents

page 2	第1回世界遺産フォーラムを開催	島根県 田原淳史
3~6	最近の調査研究事業	
	(1) テーマ別研究	島根県 目次謙一・守岡正司
	(2) 発掘調査	大田市 新川 隆
	(3) 文献調査	島根県 目次謙一
	(4) 海底調査	島根県 椿 真治
	(5) 石造物調査	島根県 守岡正司
7~8	石見銀山世界遺産センター 活動だより	大田市 西村崇司
9	熊谷家住宅で雑もの茶会を開催	大田市 林 泰州
	あいさつ	島根県 若槻真治
10	石見銀山遺跡ニュースと世界遺産登録	島根県 守岡正司

島根県世界遺産室 田原 淳史

石見銀山遺跡が世界遺産に登録されて早くも2年が経過しました。この間、多くの観光客がこの遺産を訪れ、世界に大きな影響を与えた石見銀山についての理解を深めています。一方で、『石見銀山遺跡ニュース』でも報告してきたとおりそれに起因する課題も生じており、島根県・大田市、そして住民が協力しつつ対策を進めてきているところです。

遺産の観光はその理解を進めることに有益なものです。が、一歩間違えればかえって遺産の価値を損なうことになりかねません。このような「遺産の保護と活用」にかかる課題は、ほかの世界遺産においても生じており、それぞれの状況に応じた取り組みが進められています。

今回の「第1回世界遺産フォーラム」は、時に対立することもある世界遺産の「保護と活用」について、その望ましいあり方を国内の世界遺産所在地で活動する方や観光に携わる方の意見交換を通じて県民・市民の方々とともに考え、よりよい世界遺産を目指していくことを目的として開催しました。

今回は、10月31日に大田市で、ペルーにある世界遺産「ナスカの地上絵」の保護活動に取り組んでいる楠田枝里子さんによる基調講演と、国内にある14の世界遺産のうち、北の白神山地から南の屋久島まで石見銀山を含む7か所の関係者と、世界遺産に関連した旅行商品を展開しているJR西日本の担当者によるパネルディスカッションを行い、県内外から来場した方々が熱心に耳を傾けていました。

各遺産の内容や置かれている状況は様々であり、課題も簡単に解決できるものではありませんが、人類共通の遺産を確実に良好な状態で継承していく上で、保護と活用をどう両立させ、それには何が大切なのかについて考える良い機会となったのではないかと思います。

なお、このフォーラムについては、世界遺産所在地の地方新聞社14社によって設立された「世界遺産ネットワーク」とも協力しながら、各地域での継続的な開催を模索することとしています。



▲大田市民会館でのフォーラム



▲パネルディスカッションの様子



(1) テーマ別研究

『最盛期石見銀山の復元』

島根県世界遺産室 目次 謙一

前号で紹介した後、平成21年2月・6月・11月と3回の客員共同検討会を実施し、町の区画・道・墓地・寺院や近世後期・発掘調査等の各テーマ・分野による報告とそれに基づく議論、関連する現地視察を行いました。また、復元の基礎資料となる遺跡構成要素の分布地図作成や、関連史料の収集も進めています。

これらを通じて、現在は山林となっている土地にもかつては寺院・工房・町家などが建ち、様々な人々が暮らしていたことがあらためてわかってきました。今後は、遺跡構成要素をより詳しく調べ、最盛期の景観を描き出していきます。



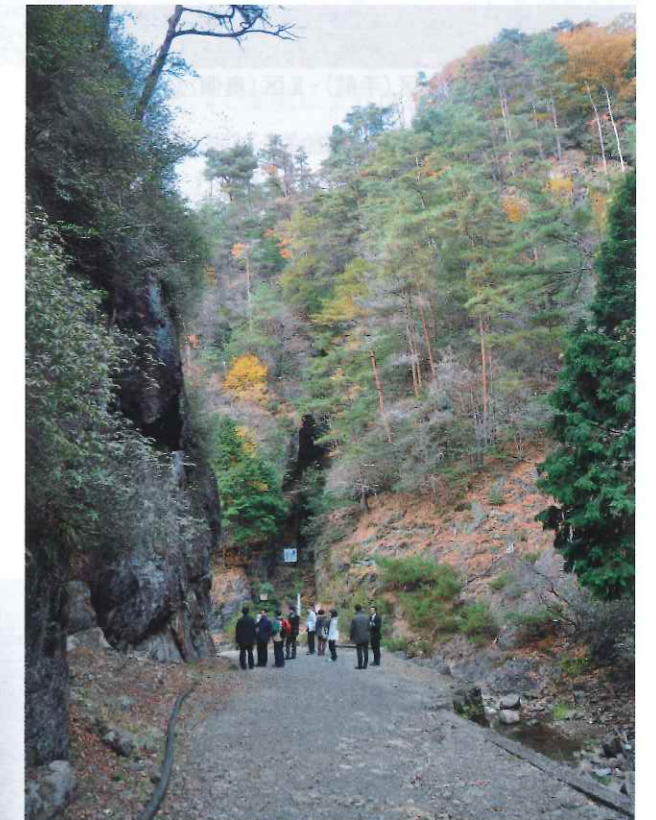
▲仙ノ山頂上付近・石銀藤田地区の鉱山町跡を現地視察

『東アジア鉱山の比較研究』

島根県世界遺産室 守岡 正司

客員研究員の方々と国外鉱山、島根県外鉱山、島根県内鉱山を分担し、鉱山の情報を収集しています。県外鉱山については兵庫県朝来市教育委員会にご協力いただき、11月26日に石見銀山・生野銀山共同研究会議を朝来市生野町で開催しました。石見銀山と生野銀山との繋がりなど、両鉱山の調査研究の報告会や現地調査を行いました。今後、両鉱山の史資料を調査し、鉱山間の人や技術の動きの物証を確認していきます。

また、県内の鉱山では邑南町久喜大林鉱山や津和野町内の鉱山などの現地調査や史資料調査を行いました。近代の鉱山道具が確認されたほか、久喜大林鉱山では採掘跡が良く残り、採掘方法や採掘範囲の解明が進みつつあります。



▲生野銀山の露頭掘り跡

(2) 発掘調査 大田市石見銀山課 新川 隆

今年度の発掘調査は平成15年度から断続的に調査を行っている本谷地区と平成19年度から調査を行っている安原谷地区で行いました。

(1) 本谷地区

本谷地区では、露頭掘り前側に造成された平坦地(I区)及び、露頭掘り直下(II区)の2か所を調査しました。



▲本谷地区調査区I区(手前)・II区(奥側)全景

I区は平成15年度の試掘溝を拡張した調査区で、9面もの遺構面や道路遺構などを確認しました。出土遺物などから第1面は17世紀前半頃と推定され、確認できた最下層の第9面は戦国時代に遡ると考えられます。第1面では炉跡と考えられる遺構や石列も検出しています。炉跡は調査区の北側で集中して検出されたことから、建物(敷地)の北側隅に設置されたものと推測されます。

道路遺構は平坦地が使用されなくなった後も機能していたようで、18世紀以降もかさ上げを繰り返しながら継続的に存続していたことが判明しました。

II区では岩盤をV字型に掘り下げた露頭掘りの採掘跡や3面の遺構面などを確認しました。遺構面は露頭掘り内でも検出されており、最も下層の第3面が16世紀末から17世紀初頭頃と推測されます。造成は露頭掘りがある程度埋まった段階で行われており、露頭掘り採掘後の造成であることが明らかとなりました。こうしたことから露頭掘りの掘削年代はさらに遡るものと思われる。露頭掘りは岩盤の加工の様子から採掘は露頭掘りに向かって左側から右側に向け

て岩盤を剥ぎ取るように掘られたと推測されます。また、調査区北端では上下に走る鉱脈も検出されており、採掘痕が残ることからこの鉱脈についても採掘は行われたものの、何らかの理由で完掘がされなかったものと思われる。この他、露頭掘り南側では5基の石製基壇も検出しており、形状から墓地の可能性が考えられます。

(2) 安原谷地区

安原谷地区は昨年度の試掘で遺構を確認したトレンチを拡張して2か所(II区・III区)の調査を行いました。

II区では岩盤を加工した階段状遺構や溝、粘土で床を貼った礎石建物などを確認しました。岩盤の溝に続くように、岩盤に沿って石組みの溝が造られており、さらに石組み遺構に接続していました。こうしたことから一連の遺構は排水を兼ねた水溜であったものと思われる。礎石建物の全体規模は明らかにできませんが、選鉱などの製錬に関する作業が行われていた可能性があります。時期は17世紀初頭から前半のものと考えられます。調査区東側では斜面を上るように並んだ石列を検出しており、通路或いは水路を構成していた石列の可能性があります。

III区は、水害により遺構面が壊されている部分もありましたが、2面の遺構面と石垣等を確認しました。遺構面には粘土が貼られ、土間面が存在していたと思われるが、明確な遺構は確認できず、柱穴状の遺構を2基検出したのみです。また、石垣の下のほうには石垣を埋めるように意図的に廃棄したと考えられるズリが厚く堆積していました。

▼安原谷地区調査区II区全景



(3) 文献調査 島根県世界遺産室 目次 謙一

今年度の文献調査では、近世代官所の役人文書や、石見銀山に関係した家の伝来文書を調査しています。各文書の所蔵先では、許可を得て史料1点ずつ写真を撮影し、後日写真から内容を解読して文書全体の目録を作成してゆきます。この目録には表題・年代・差出人と宛先・特記事項等を書き込んでおり、文書の全体像が把握できるとともに、今後の詳細な解読の基礎となります。

大森町で住宅が公開されている熊谷家には、銀山に関係し一括で残るものでは最大規模の数量を持つ文書が伝えられました。現在の目録では6,200件あまりに及び、そのうちの約2割は「一件袋」と呼ばれる袋1つに複数の史料が入るものです。現在、一件袋を開いて中にある史料を1点ずつ記録カードを作成しています。

また、熊谷家には全国各地の寺社から配布された札が長期にわたりまとまって残されており、これらの大きさ・神仏の名称・寺社名・祈願内容等の基礎データを記録することも必要です。

熊谷家文書のほかにも、調査を通じて新出史料を数多く確認できました。今後これらの解読や調査研究を進めることで、銀山について新たな事実が明らかになることが期待されます。



▲文献調査の様子。目録データを調べています

(4) 温泉津湾海底遺跡の学術調査 島根県世界遺産室 椿 真治

ここ10年で、沖泊港海底から江戸時代の陶磁器が採取されたり、温泉津湾口の海底で人工的な石材が発見され、海底遺跡の存在が知られるようになっていました。

こうした中で、昨秋には、遺跡の内容を学術的調査によって明らかにしようという試みが、福岡県のNPO法人アジア水中考古学研究所と金沢大学の合同チームにより実施されました。同チームは事前に海岸調査や過去の情報を検討し、今回の調査ポイントを過去に遺物が発見された2か所に絞り込みました。

調査の方法は、海底の基準点に設置したロープ(長さ30m)を回転させながら、円形の範囲を調査して、写真撮影や測量を行うものです。当日は、うねりが残り透明度が低いやや悪条件の中で行われましたが、過去に発見された遺物が実際に確認され、その位置が初めて地図上に正確に落とされました。

今回は、海底とはいえ、遺跡の表面を観察するという、遺跡の確認調査でしたが、発掘調査も含めて、今後も調査が継続される予定です。江戸時代の文献資料にも、港内で暴風により壊れたり、瀬に乗り上げて沈没した船の記録が残っていることから、将来海底に埋もれた貴重な遺物が発見されることを期待したいと思います。



▲沖泊海底で発見された江戸時代(18世紀)の染付磁器碗(左は方位磁石)

世界遺産 石見銀山遺跡とユネスコ

石見銀山遺跡は2007年7月2日に世界遺産に登録されました。

石見銀山遺跡を世界遺産に登録したユネスコは、教育・科学・文化の推進を通じて世界の相互理解をすすめる、平和を構築するとともに、差別の解消など人類の福祉の促進をはかるうとして1945年に採択されたユネスコ憲章を基に、翌年1946年に設立された国際連合の付属機関です。そしてその目的を実現するための主要な活動のひとつが、人類にとってかけがえのない文化遺産・自然遺産を世界遺産として保護しようとするものです。

つまり、ユネスコの世界遺産登録活動とは、石見銀山遺跡のような世界遺産を保全・保護することで、人類が

世界中で築き上げた多様な文化や歴史、あるいは自然が作り上げた景観や美などに対する人類共通の敬意やそれを省みる精神を育て、平和で、豊かな自然に囲まれ、そして人間の尊厳が守られた未来の世界に向かおうとするものなのです。

世界遺産の意義と保全への理解と協力をお願いします。

(5) 石造物調査 島根県世界遺産室 守岡 正司

石造物には供養塔、墓石などの石塔、鳥居や狛犬、鉾山の製錬作業に必要なかなめ石や白など多くの種類があります。

今年度の石造物調査は温泉津地区で行っています。温泉津から沖泊へ続く街道沿いには、天正2(1574)年の銘が入った石塔がありました。温泉津で確認されているもっとも古い石塔の一つです。銀山柵内の龍昌寺跡からは元亀3(1572)年の石塔が発見されている



▲天正2年銘の石塔

ことから、温泉津地区と大森地区でほぼ同時期に石塔が建て始められていることがわかりました。

金剛院には高さ約4mの石塔があります。石材の表面は剥離していますが、一部に寄進した人と考えられる人名がありました。人名には温泉津の商人や大森の地役人などがありました。人名や石塔の形から18世紀末～19世紀前半に造られていることがわかります。何を願ってこの石塔が建てられたのか謎ですが、実測や写真撮影を通じて、歴史を後世まで伝えていきたいと思っています。



▲金剛院墓地の宝篋印塔

イベント等のお知らせ

温泉津のシンポジウム

— 温泉津の未来を展望してみよう —



温泉津の町並み調査が開始され10年がたちました。10年前に調査に関わった人たちとともに温泉津の町並みを考えたいと思います。

日程 平成22年2月28日(日) 14:00開始

場所 温泉津自治会館

問い合わせ先は

大田市教育委員会教育部石見銀山課

TEL0854-82-1600 FAX0854-84-9156

石見銀山資料館で特別展が開催

石見銀山資料館では「なかむらコレクション特別展示 石見銀山と長崎、そしてオランダ～金銀銅銭座の作業図～」が開催されています。

長崎の絵図やバタバアの銅貨などが展示されています。

問い合わせ先は

石見銀山資料館 TEL0854-89-0846



平成21年度 石見銀山世界遺産センターの活動

大田市石見銀山課 西村 崇司

世界遺産センターでは、平成21年度から世界遺産・石見銀山遺跡について、より深い関心を持っていただくことを目的に、さまざまな講座や体験学習等のイベントを行っています。

この紙面では、開催した事業の一部を紹介します。

今後は、調査研究や遺跡保全などを着実にしつつ、石見銀山のファンや来訪者が増えるよう、工夫を重ねたいと思います。

※すべての概要は、HP「<http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>」で公開しています。

1 講座 (年4回実施 県内外の石見銀山遺跡に関する研究者、関係者等の講演)

第1回は、『辻が花染丁子文道服再現品の制作 (矢野俊昭氏 染織文化財研究所所長)』でした。染織における「辻が花染め」の歴史の解説や「道服」再現時の経緯等の説明を受け、展示室内で再現品や制作過程のテストピースを解説付きで観覧しました。約1年を要した制作時の苦労話やその過程での新たな発見など興味深い話が聞けたとともに、たくさんの質問にもわかりやすい回答をいただきました。

※再現品の展示は、湿度、照明の庫内環境や自重負荷を考慮し、期間限定の公開としています。

第2回は、『「代官」川崎平右衛門定孝～石見銀山に至るまで (馬場治子氏 府中市郷土の森博物館学芸員)』でした。石州銀山附御料では59名の奉行・代官が赴任しています。武蔵国多摩郡生まれの川崎平右衛門定孝は31代目の代官(在任は1762-67)で、石見銀山を立て直した「中興の祖」と言われています。彼の素養を培った武蔵野地域の村役人層の優れた能力や、武蔵野新田や美濃国などでの業績など、石見銀山へ赴任するまでの足跡を講演いただきました。

2 夜学 (原則、毎月第2月曜日の夜) 大田市及び島根県の専門職員による石見銀山遺跡の様々な分野の三二講演

3 体験イベント等

体験学習や発掘調査の現地説明会のイベント等を随時開催

5月30日に開催した『仙ノ山ウォーク～新たに整備した遊歩道・史跡巡り』は、時折小雨も降る寒い一日でしたが、市内外から39名の参加をいただきました。

行程は、世界遺産センター(9:10発)⇒



▲仙ノ山ウォーク(2009.5.30 清水谷選鉱所跡)

仙ノ山展望台(9:50)⇒清水口(10:20)⇒清水寺跡・選鉱場跡・蔵之丞坑(11:30)⇒銀山公園(12:00着解散)。いたるところで参加者からの質問に答えるかたちで、ゆっくりと3時間をかけてのウォークとなりました。今後予定されている、選鉱場跡と清水谷製錬所跡を結ぶトロッコ道を見学道として整備する計画などの説明も行いました。

7月11日は、『銀山の製錬作業～選鉱体験・灰吹実演』の体験イベントを開催しました。実際に鉾石を細かく砕く作業(こなし)、銀をゆり盆で抽出する作業もあわせて体験してもらいました。また、石見銀山の銀産出量を飛躍的に高めた「灰吹法」の実演見学も行いました。こなし作業では、「思ったより難しい、力加減が強いと飛び散って細かく砕くことができない。繊細な作業であるこなし作業に女性が活躍したのもうなずける」と感心の声も上がりました。



「銀山の製錬作業」体験イベント

(2009.7.11 灰吹法原理の実演)

4 展示会

石見銀山遺跡の理解につながる様々な企画展示を随時開催

7月2日から『都市鉾山』の常設展示を始めました。都市で廃棄される電化製品などは、希少な金属を回収・再利用できることから、「都市鉾山」と呼ばれています。展示オブジェはDOWAホールディングス(東京都千代田区)からの寄贈品。鉾山をイメージしたピラミッド型で、携帯電話などの廃品を積み上げ、映像でリサイクルの原理と重要性を解説。また、石見銀山の技術者が製錬に成功した「黒鉾」の標本と、この黒鉾の製錬方法が現代の廃棄物処理の技術に発展した過程の解説パネルも展示しています。

平成21年度 石見銀山世界遺産センターの行事

公開講座 (年4回)	月日	曜日	テーマ等	講演者	参加者	
	1	6/1	月	辻が花染丁子文道服再現品の制作	矢野 俊昭氏 (染技連文化財研究所所長)	50名
	2	7/4	土	「代官」川崎平右衛門定孝-石見銀山に至るまで-	馬場 治子氏 (府中市郷土の森博物館学芸員)	50名
	3	10/3	土	地球科学から見た石見銀山とその周辺	赤坂 正秀氏 (島根大学総合理工学部教授)	40名
	4	3/7	日	石見銀山調査研究最前線! - 鉱脈と採掘 -	井澤 英二氏 (九州大学名誉教授)	

夜学	月日	曜日	演題	講演者	参加者	
	1	5/25	月	世界遺産センターが目指すもの	西村 崇司 (石見銀山世界遺産センター長)	50名
	2	6/8	月	鉱山遺跡の調査	守岡 正司 (県文化財課専門研究員) 目次 謙一 (県文化財課主任研究員)	58名
	3	7/13	月	石見銀山遺跡の史跡整備事業について	遠藤 浩巳 (大田市石見銀山課課長補佐)	40名
	4	8/10	月	考古学から見た石見銀山前史	樺 真治 (県文化財課専門研究員)	40名
	5	9/14	月	世界遺産から人間の歴史を考える	若槻 真治 (県文化財課世界遺産室長)	40名
	6	10/20	火	センターフルオープン1周年を迎えて	小野 康司 (大田市石見銀山課長)	30名
	7	11/16	月	石見銀山遺跡の保存管理	中田 健一 (大田市石見銀山課係長)	40名
	8	12/14	月	出土品から見た石見銀山	守岡 正司 (県文化財課専門研究員)	37名
	9	1/12	火	平成21年度石見銀山遺跡本谷・安原谷地区発掘調査成果	長嶺 康典 (大田市石見銀山課係長)	35名
	10	2/8	月	古文書にみる石見銀山とその周辺地域	中木紗友美 (県文化財課嘱託員)	43名
	11	3/8	月	歴史から見た町並み保存 (仮題)	林 泰州 (大田市石見銀山課課長補佐)	

体験 イベント 等	月日	曜日	演題	内容	参加者	
	1	5/30	土	仙ノ山ウォーク	新たに整備した遊歩道・史跡巡り	39名
	2	6/17	水	小中学校体験受入: 温泉津中学校	こなし・選鉱体験・灰吹実演	79名
	3	6/28,9/27	日	クリーン銀山	石見銀山周辺の草刈り等	128名
	4	7/11	土	体験イベント・銀山の製錬作業	こなし・選鉱体験・灰吹実演	18名
	5	7/26	日	体験イベント・福光石加工	地元産の福光石を加工してのレリーフ作り	10名
	6	12/19	土	発掘調査現地見学会(安原谷・本谷地区)	発掘調査現地での説明会	積雪中止
	7	12/23	水(祝)	『こもんじょ』を読んでみよう	石見銀山に関する古文書を読む	23名

展示会	月日	展覧会名	内容
	1	6/1~他	辻が花染丁子文道服再現品展示(全5期) 6/1~ 8/12~ 10/17~ 12/19~ 3/13~
	2	6/27~8/31	写真展「石見銀山百景」 「別冊太陽」に掲載された遺跡等の写真展
	3	7/2~	常設展「都市鉱山」 自然鉱石から「都市に眠る」鉱石へ
	4	9/12~	企画展「発見! 地下に眠る大森の町」 発掘調査成果の速報展示会
	5	3/6~	調査ミニ速報展(安原谷・本谷地区) 発掘調査成果の速報展示会



7月の登録記念月を中心に島根県立古代出雲歴史博物館と島根県立三瓶自然館、石見銀山世界遺産センター3館巡回イベントを行いました。



▲情報コーナーで行った「企画展 発見! 地下に眠る大森の町」



▲情報コーナーに設置した手作りの坑道(間歩)体験コーナー



熊谷家住宅で雑もの茶会を開催しました 大田市石見銀山課 林 泰州

熊谷家住宅で雑もの茶会を夏と秋の2回開催しました。参加者に茶碗、鉢、井など普段使っている器をもってきていただいて茶をたてるユニークなお茶会で、「家の女たち」と呼ばれる同住宅のスタッフが、箱寿司やうどん豆腐、お菓子など手作りの料理でお迎えしました。華やかにしつらえた座敷で、熊谷家住宅監修者の小泉和子さん(昭和のくらし博物館館長)のお話、スタッフの朗読、地元の方の歌や演奏も楽しみました。熊谷家住宅では、しつらいで日本住宅の美しさを表現し、心をこめた手作り料理などでおもてなしのお茶会を今後も開催いたします。次回をお楽しみに。



▲夏のお茶会



▲手作りの葛まんじゅう(夏)



▲秋の茶会

多くの方に「なるほど」と いってもらえる石見銀山へ

島根県文化財課 世界遺産室長 若槻 真治

みなさんこんにちは。

私は4月から世界遺産室長を務めています。

20年前にはじめてみた石見銀山遺跡は、町並み保存が始まったばかりでしたが、それはそれは静かな雰囲気を湛えていました(1回目の文化財課勤務時代)。2回目の文化財課勤務時代には、町並み保存も定着し、世界遺産登録に向けての総合調査も始まったので、少しずつ見学者も増えて熱気を感じるようになりました。そして今回、8年ぶりに文化財課に戻ってみると、それは立派な世界遺産になっていたのです。

石見銀山には巨大な伽藍も白亜の天守もありません。世界遺産を取り上げた番組で見るとような欧州の宮殿や教会の豪華絢爛たる美しさとも無縁です。しかしそこには、鉱夫たちをはじめとして、人々が自然と格闘した労働の痕跡や生活の跡が無数に残り、今でこそ草や樹木に覆われたこの地域が、かつては産出した銀によって世界貿易に大きな影響を与え、また日本国内のたくさんの鉱山に新しい採掘技術を伝達する、当時では最先端の地域であったという歴史を、私たちは感動をもって知ることができるのです。

世界遺産石見銀山遺跡はこれからです。世界遺産の名に恥じないように、大森町をはじめとする地元の皆さんの協力も得て、ありのままの石見銀山をしっかりと保存して後世に伝えることはもちろんですが、考古学や文献学による歴史調査・研究を進め、これまでは知られていなかった歴史を解明していきます。また見学者に見てもらいたい遺跡や遺構については、整備を進めてその価値を示します。

まだいらっしゃっていない方はぜひ一度石見銀山に来てください。一度こられた方はもう一度来てみてください。これまで二度来られた方は三度目を...

「紙版」石見銀山ニュースはこれで最後です、これからはHPでお会いしましょう。ぜひ見てください。またその他いろいろと取り組みますので楽しみに。

では今後ともよろしくお祈りします。

お知らせ

石見銀山遺跡ニュースと世界遺産登録

島根県世界遺産室 守岡 正司

『石見銀山遺跡ニュース』は平成13年7月に第1号が発行されて以来、8年間で15号を発刊してきましたが、本号が最終号となります。これまでの表紙を見ると、世界遺産登録への活動の歴史がわかります。当初の表紙や内容は、石見銀山遺跡の価値を明らかにするため様々な調査を行い、その情報を提供しています。第7号以降では石見銀山遺跡の価値証明のため、国際シンポジウムや専門家国際会議を開催している様子がわかります。

第10号では日本国からユネスコ世界遺産センターへ提出された「推薦書」を掲載し、大きな区切りとなりました。その後、イコモスによる現地調査を経て、石見銀山遺跡が世界遺産登録されたことを知らせてきました。

世界遺産登録後も石見銀山世界遺産センターの展示棟を含めたフルオープン、登録1周年記念シンポジウム・講演会や石州銀展などの石見銀山遺跡の魅力を紹介しています。

また、より価値を高め、わかりやすい石見銀山遺跡を目指し、継続して行っている調査研究の成果も随時掲載し、石見銀山遺跡の情報を伝えてきました。

現在、石見銀山世界遺産センターでは公開講座や体験学習の開催や情報発信などホームページの充実を行っております。『石見銀山遺跡ニュース』に代わり、今後、石見銀山遺跡のイベント情報や成果発表はホームページを中心に行う予定にしております。長い間、ありがとうございました。

No.	表紙	発行日
1	オルテリウス/テイセラ日本図(1595年)	2001年7月2日
2	大久保間歩	2001年11月1日
3	大久保長安書状(長野家文書) 年末詳3月6日	2002年5月10日
4	仙ノ山と山吹城跡(空撮)	2002年11月1日
5	オルテリウス鞆図(1570年頃)	2003年5月7日
6	石州大森鉱山永久工場全景	2003年11月1日
7	石見銀山国際シンポジウム講師らによる大久保間歩内視察	2004年5月14日
8	ユネスコ松浦事務局長の銀山視察	2004年11月12日
9	鉱山遺跡の顕著な普遍的価値と保存管理に関する専門家国際会議	2005年8月5日
10	石見銀山遺跡とその文化的景観 世界遺産登録推薦書	2006年2月10日
11	イコモスの現地調査風景	2007年3月20日
12	大田市役所でのくす玉割り	2007年11月9日
13	10月20日にフルオープンする石見銀山世界遺産センター	2008年9月24日
14	石見銀山世界遺産センターフルオープン、テープカット	2009年3月3日



▲雪の世界遺産センター

「石見銀山ニュース」15号をお届けします。石見銀山世界遺産センターにお立ち寄り下さい。



United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)



世界遺産
WORLD HERITAGE
Iwami-Ginza Silver Mine and its Cultural Landscape
Inscribed on the World Heritage List in 2007
石見銀山遺跡とその文化的景観
2007年世界遺産一覽表記載

石見銀山遺跡ニュース第15号 2010年2月24日発行 編集発行/島根県・大田市教育委員会/TEL0852-22-5642 (島根県教育庁文化財課 世界遺産室) http://www.pref.shimane.lg.jp/sekaiisan/iwami_ginza/

石見銀山世界遺産センター/大田市大森町1597-3 TEL0854-89-0183 FAX0854-89-0089 <http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>